

### 第3回車座会議 議事概要

- 1 日 時：令和6年7月30日（火）13：00～14：00
- 2 会 場：みよし森のポッケ
- 3 登壇者：湯崎広島県知事、早田 吉伸教授（広島叡啓大学）、久保田 夏菜さん、  
佐々木 良さん（子育て層）、角佛 里恵さん（子育て層）、  
山崎 浩美さん（子育てを終えた層）、桑原 利治さん（子育てを終えた層）、  
伊藤 晴美さん（独身層）、石井 百恵さん（司会・TSSアナウンサー）

#### 4 概 要

##### 【オープニング】

石 井 本日のテーマは「子育て・教育に係る負担を社会がどこまで支援すべきか?」。これから本日皆様に意見交換していただきたい。

（出席者自己紹介）

（広島県の少子化の現状と課題等について、広島県担当者から説明）

【論点1：経済的負担軽減策として、家庭の収入を増やす方策（就業支援や両立支援等）と、子育てや教育に係る費用（保育料、給食費、授業料、医療費など）の公費負担がある中で、公費負担の更なる充実は必要だと思いますか?】

石 井 子育て支援施策について、様々な支援が既にあるが、充実していると思うか、○×で回答いただきたい。

⇒ ○（充実している）4人、×（充実していない）2人

久保田 （○と回答）今は満足だが、将来は不安。私が子育てを4、5年して、現時点では満足と感じている。それは、この5年間で、うちの家庭の場合は、支えてもらった部分の方が多いため、満足と感じている。うちの子は、心臓の病気を持って生まれた。今は手術により、完治したので、もう病院に通うこともないが、心疾患がある子は、RSウイルスにかかるとう重症化するので、予防のため月1回ワクチンを接種するよう言われたが、1回のワクチン接種が約8万円ということで衝撃があった。実際には、乳幼児医療（制度）によって500円で済むということが分かり、その後の手術もかなりの費用だったが、同じく乳幼児医療（制度）によって負担してもらい、本当に助けてもらった今があるので、満足をしている。

もうひとつの理由としては、やっぱりこの支援策が増えれば増えるほど、納税の負担が拡大していくと思うので、そのバランスを考えると、あまり（支援が）多すぎてもと思う。「将来は不安」という部分について、今は満足しているが、今ある制度が自分の子供が大人になったときに残っているかが不安。

角 佛 （○と回答）私も充実していると思っていて、4人子供がいるが、上と下が10歳離れており、その10年間でもどんどん増えてきているなど感じている。（医療費の支援については）、大した症状はないが500円だから通院する人も結構いるように感じるので、個人的には、使う側の意識もちょっと気になる。あと、すごい大枠は助かっているんですけど、やっぱりまだ部分的には足りないところもあるという思いもある。

桑原 (○と回答) 私たちの時代を思い出してみると、子供は自分の責任において大きくするのに、税金を投入して大きくしてもらおうというのは考えられなかった。また、(支援についても)上はキリがない。やっぱり親の責任ということで、自分が作った子供は自分で責任を持って、大きくしてやるのが本来の姿ではないかと思う。

石井 今は十分すぎるほど十分だということか。

桑原 十分かどうかというのは、数字的には分からない。辛口な言葉を使うが、いいか悪いかは別として、行政に頼って子供を大きくするというのは、私たちの時代とは全くかけ離れた考え方。さっきも言ったように頼れば、上はキリがない。子供に対し行政の支援があるのはすごく充実していいことだとは思いますが、親の責任の面から言うとうろかなと思う。

伊藤 (○と回答) 周りの友達たちも出産している人がおり、給付金が出て、そういう制度に助けられて、何とかできたという話を聞くので、こういう制度があると、子供について、これから先のことについて考えられるというか、安心感があると思う。

佐々木 (×と回答) ×と回答したのは、条件がついており、三次市は○、広島県としては×。内容としては、障害のある子供への支援について話をしたい。昨年、鎖肛という約5,000人に1人の病気を持って息子が生まれた。鎖肛とは、体の中で腸と肛門が繋がっておらず、生まれてすぐに人工肛門、つまりストーマを作る。ストーマには取り付けるパウチが必要になるが、これが広島県では、ほぼすべての市町において実費(自己負担)となっている。先ほど、十分すぎるという話もあったが、生きるために必要なものに関しては、補助が必要だと思う。そういうところを、広島県のすべての自治体においても、対応してほしいという思いがあり、広島県に関しては×と回答した。三次市へは要望書を提出し、対応していただいた。鎖肛に限らずあらゆる病気と戦っているご家族もいらっしゃると思うので、そういったところにも目を向けて、発言しやすいようなフィールドをちゃんと作っていただければ非常にありがたい。

山崎 (×と回答) 本当は、△。支援は十分あるが、個人への援助以外で、子育て支援施設の充実をもうちょっとして欲しい。出産一時金等は私が子供を産んだときより充実していると思う。一方、子供は20歳ぐらいまでは育ててやらないといけないので、子育て中の悩みとかを相談できる施設について、もっと行きやすい、利用しやすいよう充実してもらいたい。

石井 早田先生は話を聞いていけるか。

早田 社会情勢が変わってきており、親の責任や個人の責任について、社会全体が包摂性を持ってサポートできた時代から、変わってきているという側面はある。また、経済的な支援の話をするとうろかな支援をしてもらっているという意見が多くなる。一方、安心感という話もあり、この地域(三次市)はいいというようなお話があり、経済的な面も含め、子育てできる安心感を持ちたいという共通した意見で出てきたのかなという感触。

石井 色々な意見を踏まえて、湯崎知事はどうか。

湯崎 細かいところでいろいろ届いてないところもあるのかなというのが、ひとつあった。安心感はすごく大事だと思っており、ネウボラを県内全体で進めていて、その目的は、安心して子育てができるということ。昔は近所や親戚が助け合うなどしていたが、それが少なくなってきており、頼るのも誰に頼ったらいいかわからないという状況になっている。そのため、みんなで支えていますよという実感を持ってもらうのが、ネウボラの目的のひとつ。

つ。そういうことも進めているが、ネウボラも6歳までというのもあり、そこから先も含め、いろんなことがあるなど感じた。

【論点2：行政の子育て支援策を一層強化していくには、追加の税負担も想定されますが、そうした社会全体での負担のあり方をどう考えますか？】

石井 今の議論を深めていこうとすると、財源は限られている中で、バランスがすごく必要になってくると思う。そこで、次のテーマに移りたい。制度の充実のために追加の負担をしてもいいよと思う場合は○、これ以上負担は困るは×で回答いただきたい。

⇒ ○（負担してもよい）2人、×（これ以上の負担は困る）4人

久保田（○と回答）すごく悩んだ。まず税という形で負担するかについて、うちは、まさに子育てをしていて、支援を受ける側なので負担はすべきだと思う。あと、子育てにはお金がかかるという印象があるが、それでも私は子供を産んでよかったと思うし、子育てをする喜びとか生きがいは大きい。子育てを終えた世代や、子供を持たない選択をされた方たちの負担をどう考えるのが難しく、正直その金額によると思う。いくらなのかで状況は変わってくる。高くなるのは悩みどころだが、何百円とか、そういう段階であれば、私は、払うという形で関わることで、人口減少とか少子化を自分ごととしてとらえるきっかけになるのではないかと思う。2050年には、広島県の人口は、20%以上減るというデータもあり、本当にそこについて真剣に考えられているかという、私も含め、危機感が薄いような気がする。なので、税という形で払うということで、それぞれが危機感を持ち、向き合えるきっかけに、難しいがなればよいなど思っている。

また、負担という言葉についても、（支援を）受ける側は何か申し訳ないという、罪悪感も生まれるし、払う側も強制的なイメージがあると思うので、その言葉自体、支えるという言葉に変わればよいと思う。

山崎（○と回答）私は、自分の時代に支援を受けているので負担は仕方ないと思う。あと、20歳の娘がいるが、国や県の支援策を見ていたら、（娘も）将来同じような支援を受けるので、親世代（が負担するの）は仕方ないと思う。私自身、2050年には74歳か75歳になるが、その時は高齢者として、その世代が援助を受けたりもするのでもうこれは仕方ない。金額に関しては要相談。

石井 お互い様というかそうですね。佐々木さんはどうか。

佐々木（×と回答）僕も子供が今1歳なのでかわいいかわいいばかり。幾らでも投資したいし、お金は出せるだけ出したいが、×と回答したのは、財源の透明化が大事だと思う。やっぱり自分が子供たちのために、新たに税金を投じる、その手前、他にどんなふうに自分のお金が使われているんだろうというところに関して、もう、市とか県を超えて国、組織の中で、不鮮明なことが多過ぎると思う。だから今日この場において、このような話をするのがふさわしいかはあるが、岸田総理ぐらいまで話が上がらないと、何も変わらない。自分たちが気持ちよく、国のために、子供たちの未来のために税金を払うというには、クリアになっていかないと、なかなか難しい。あと（仕組みが）難しい。結構そういう人も多いと思う。

石井 透明化され、このお金はこれに使われたということが目で見えたら、×が○に変わる？

佐々木 もちろん変わる。だから無駄なお金の中から子供たちに向けて充てられるお金が絶対あると思う。また、無駄なお金も絶対あると思うので、きちんと国民一人一人に提示してもらい、健全な政治の中で、綺麗に子供たちにお金を使ってほしい。そのためにわざわざ新しい財源というか、税金を払う必要は正直ないと思う。

角 佛 (×と回答) 子供が4人学校に行っているが、4人中3人は行きたくないと言う。その場合、田舎なので、行く場所がなく、フリースクールとか、他の場所や選択肢がない。今、高校は無償化で、その子に対する支援をしてもらっているが、中学校や小学校は、学校に予算がいきっており、休んでいてもそこに投入されているので、ちょっと使い方を考えるだけで、どうにかなることもあるのではと思う。あと、学校の先生方に聞くと今年度の予算は、もう一応これで割り当てられているので使わなければいけないと言うが、それはどうなんだろうといつも思う。行政はその年の間に(予算を)使い切らないといけなのは、無駄じゃないかと思うが、繰越せないとか、いろんな事情でそうなっているのかもしれないが、そこら辺を変えると、予算がないことはないんじゃないかと思う。増税の前にちょっとやり方を変えてはどうか。

石 井 伊藤さんはどうか。

伊 藤 (×と回答) 今の生活を保っていくのに必死な状態。課税となると厳しい。自分が子育て世代になれば、支援されているというのは分かるが、税金は何となく払っているというか、目に見えていないと感じる。

石 井 結婚、出産の前の世代へのケアも必要という意見もあるか。

伊 藤 周りでも、一人暮らしの生活がキツキツで、自分の給料で過ごすだけでも、精一杯というのでも聞くので、追加で納税となってくると、今の自分の生活がどうなるのかなと思う。

石 井 桑原さんは×だがどうか。

桑 原 (×と回答) 支援をすることそのものが決して駄目ではない。支援によって、子育てしやすくなり、少子化の問題が止まるのであれば、みんなで背負って、常識のある範囲内で支援することはやぶさかじゃない。しかし、金だけ突っ込んでいって、(出生率などの)数字が上がっていくならばいいが、お金だけではない。お金がかかる部分というのは、学校以外で、塾もあれば、そろばん、水泳、野球とそういう面で随分お金がかかっているんじゃないかなと思う。それを否定するわけではないが、やっぱり、農業体験のような、土と自然と命というものを、子供の頃からずっと勉強と同じように携わっていくことも必要。ただ机の上の勉強だけ、あるいは子供の意思と関係なく親の見栄でというのは無駄があるのではないかな。もう少し自然を子供の頃に体験することが、必ず将来机の上で勉強した以上の、人生を豊かにする部分がある。

石 井 桑原さんの意見で、経済支援があっても子供が増えることには繋がらないかもしれないという表現があったが、皆さんどうか。

佐々木 個人的には、金銭的なところと、心の豊かさ、また子供を増やしたいというところは全然別個だと思う。僕もここから車で10分ぐらい山奥に走らせた方に住んでいるが、地域の方の支援や、人と人が触れ合う環境の中で地域の人たちが自分の子供たちのことを見てくれるという中であれば、本当に極端な話、お金がそんなになくても、子育てはできる。安心感というのは、本当にお金じゃ買えない価値というのはそこにあると思う。

石 井 角佛さんはどうか。

角 佛 例えば1,000万円とか2,000万円渡されて、もう1人産みますかっていうのは、(お金をもらえるのは)助かるが、産むかって言われると違う。

石 井 伊藤さんはどうか。

伊 藤 1つの選択肢にはなるが、お金が絶対かというとは違う。

石 井 山崎さんはどうか。

山 崎 タイミングというか、うちは1人目と2人目が4歳離れている。そのあとすぐ子供ができれば産んでいたかもしれないが、間が空きすぎると自分がしんどい。

石 井 早田先生はみなさんの意見をどう受けとめたか。

早 田 地域性も出てきている。安心感をどう担保しようとしているのかについて、皆さん、安心感を社会的な繋がりの中で得たいということで、三次市や安芸高田市で過ごされている側面があるのでは。ただ、その中のバランスをどうやって取るのかなと感じた。もうひとつは、テーマのひとつである課税の話について、そんなにネガティブな意見は出なかったという印象。その使われ方や透明性については、やっぱり説明して欲しいとか、理解をしたいという意見がすごく出たなというのが、今回の特徴。先ほど課税を通じて、子育てに参画をしていくという考え方もあったが、まさに関わり方の問題だなと思っていて、別に(経済的支援の)金額の大小ではなく、あらゆる世帯が、子育てに何らかの形で関与していくという仕組みみたいなものがあったらいいのかなと感じた。

石 井 湯崎知事はどうか。

湯 崎 (先ほど説明のあった)調査結果で言うと、もう1人産みたいとか、そのために何が必要かを問うと、経済的支援という回答が一番多くなる。実際に少子化が起きている理由は様々あるが、若い人の所得が安定しないことが原因になっていることも社会的には認知、認識されているところ。

一方、課税の問題については、今の国の子育て支援金の3.8兆円の話の中でも、負担について理解が難しいところもあり、それは佐々木さんの意見のような、そもそも無駄遣いが他にあるんじゃないかということも、ごもっともな意見だと思う。

例えば、広島県は大体1兆円ぐらいの予算規模だが、そのうち、例えば、社会保障や警察官、教職員の給与など、ほぼ法律で決まっているようなものが9割となっていて、県で差配して使えるお金は人件費も含めて800億円ぐらいという状況。そのうち、例えば私立学校の支援などが、合計で200億円ぐらいあり、使えるお金は少ない。先ほどの説明で必要なお金の規模感をお示ししたが、8億円~100億円というお金は、とてもじゃないけど、ちょっと無駄を減らしたとしても、(捻出するのは)かなり難しい。例えば、私立学校の支援を止めるとか県立病院等を維持するためのお金を減らすというようなことをすればできるかもしれないが、これも難しい。かなりの規模の施策を行なおうと思うと、かなりの金額が必要で、透明化や無駄なことをやめても、それだけでは捻出できない金額。これは悩ましい。

### 【論点3：経済的支援の実施にあたって所得制限を設けることは妥当だと思いますか？】

石 井 時間も限られるが、最後に所得制限についてどうか。

⇒ (○(必要)4人×必要ない2人)

久保田 （○と回答）所得制限がなくなれば格差が広がると思う。格差が広がり、社会にひずみが出てくるようになり、みんなで子育てをしていこう、みんなで子供を支えていこうという、目指したい社会から離れていくので、そこは避けたいという思い。

伊藤 （×と回答）なかなか難しいが、所得制限があっても、平等じゃない感じもある。

早田 難しいテーマだが、必ずついてまわるテーマ。経済支援を考えたときに、難しいテーマだが、平等性を地域社会とか社会全体でどう持つか。機会の平等性なのか、結果の平等なのかいろんな観点があるなと思った。

石井 今日の全体の話をもとめると、早田先生どうか。

早田 世代によって考え方が違うということが、今日の感触。

石井 最後に知事どうか。

湯崎 難しいからこそこういうこと（車座会議や意見募集）をやっているが、やっぱり経済的支援があった方がいいとか、子育て支援をもっと充実した方がいいという意見が多かった印象。そこをこれまでで十分という意見と、さらに（充実してほしい）という意見と、両方あった。でもそこにやっぱり負担というものがどうしても出てきていて、それについては、自分の生活も精一杯だとか、あるいは税金の使い方もよく分からないとか、いろいろなご意見もあった。

先ほど申し上げたように、なかなか節約だけで捻出できるようなレベルじゃないこととか、子供がいないと確かに負担なんだけれども、子供ができると逆に受け取ることができるということで、子育ての安心に繋がる部分とか、そういうところを丁寧に説明しながら、最終的には皆さんがどう感じるのかというところを明らかにしながら進めたい。

ただ1つ言えることは、このままのスピードで少子化が進んでいくとかなり社会的には厳しい。それこそ、中山間地域などの、医療をはじめとして色々なものを支えていくことなどが難しくなる。例えば、学校も小規模の学校を維持して欲しいとか色々あるが、そういうのも本当に難しくなってくる。そういったことを考えると、何とかしなきゃいけないということだと思う。

石井 幅広い世代全員が自分ごととして考えないといけない。本日はありがとうございました。

（以上）